

なぜ、勉強しなければいけないのか

1. Introduction

- ・ 問いに答える必要性 — 教育の問題解決として 外発・内発動機 —
- ・ 勉強：国語、算数などの現在小中高で行われている教育において課される一般教科

2. Answers...?

- i) 将来の生活に困らないようにするためだ！
 - ・ 将来の収入のため、ということはお金のために勉強があるのか？
- ii) 自分の将来の選択肢に幅を持たせるためだ！
 - ・ 将来どうなりたいかを決めた子には意味を成さない。
- iii) 学校で学ぶ一般教科は、社会で役に立つ！
 - ・ 証明はきわめて難しく、経験談に頼るしかない。
- iv) 勉強する必要などない！自分の好きなことをやれ！
 - ・ 教師がこれを生徒全員にいうことができるか？寝ることなどを選ぶことも可能か？

3. An Answer

I 「問い」を問う

- ・ 何を問うているのか — 理由を与えるもの ①組織目的理由 ②動機的理由
- ・ 問い方に問題はないのか — 行き詰まりを超えるための置換 —

「Q、なぜ、勉強しなければいけないのか？」

↓

- ① なんのために現在の教育システム（勉強）は課されているのか（教育者側の目的）
- ② このシステムに従う義務はあるか（義務） … α
被教育者が得られる利益はあるのか。あるとすればそれは何か（利益） … β
- ・ なぜ、この問いは発生したのか（動機＝何を知りたがっているのか） → ②

II なぜ、勉強しなければいけないのか

①…自分が生きている社会から、その社会を支えるための基礎として必要だと考えるものを便宜上科目として分ける。それらを課し、継承させることで経済的、政治的、技術的に社会を発展させるため。

↓

②— α …我々（成人）はその社会で生きる以上、当然に文化を継承させる義務を負う。
被教育者に義務はない。 →教育の義務（憲 26 条 ②）

②— β …外発的動機を与える — 唯脳論的視点から —

市川氏の学習動機の二要因モデルから考えられる外発的動機を与える利益

- ・ 報酬志向の動機 ← 権力や金銭所得（優れた脳への報酬）
- ・ 実用志向の動機 ← ①の対応関係 社会は脳
- ・ 関係志向の動機 ← 他者との共通基盤としての知識、思考法のシナプス
- ・ 訓練志向の動機 ← 脳を鍛えることに等しい
- ・ 自尊志向の動機 ← 頭がいい、よい人材＝脳の性能がよい

↓

A、勉強は優れた脳を形成し、自己実現をはかる手助けになるから。

4. Instead of Conclusion

☆ 議論は尽きない — 関係志向型 動機としての説得力 —

☆ 隠れた目的と問題意識 — 新しい試み —

【参考文献】

- ★『なぜ人を殺してはいけないのか 新しい倫理学のために』小浜逸郎 洋泉社 2000年
- ★『勉強のチカラ！』 斉藤孝 宝島社 2005年
- ★『唯脳論』 養老孟司 ちくま学術文庫 1998年
- ・『頭はよくなる』 小浜逸郎 洋泉社 2003年
- ・『頭がいい人は脳をどう鍛えたか』 保坂隆 中公新書ラクレ 2005年
- ・『海馬』 池谷裕二・糸井重里 朝日出版社 2002年
- ・『知的好奇心』 波多野之誼夫・稲垣佳世子 中公新書 1973年
- ・『図説心理学入門 第二版』 斉藤勇 誠真書房 2005年
- ・『〈問い〉としての教育学』 沼田裕之・増淵幸男 編 福村出版 1997年
- ・『学ぶ意欲の心理学』 市川伸一 PHP 新書 2001年
- ・『ママ、どうしてあんなに勉強しなくちゃいけないの』 メリー・ホワイト 井出義光訳 集英社 1992年